

**第16回「芥川作曲賞」**  
**糀場富美子氏の作品「未風化の七つの横顔**  
**～ピアノとオーケストラのために」に決まる**

「芥川作曲賞」の第16回受賞曲は、8月27日(日)午後3時から東京・サントリーホールでの演奏会による公開選考の結果、糀場富美子氏作曲の「未風化の七つの横顔～ピアノとオーケストラのために」に決定しました。同氏には、賞状とあわせて賞金50万円が贈られました。

芥川作曲賞は、戦後のわが国音楽界の発展に多大の貢献をされた故・芥川也寸志氏の功績を記念して、サントリー音楽財団が日本作曲家協議会の支援を得て1990年4月に創設したものです。故人の深い音楽愛、明晰な音楽観と音楽の振興によせられた熱情を追慕して、わが国の作曲家のもっとも清新にして将来性に富む作品を対象に、演奏会形式により公開選考を行うという、作曲賞としてはわが国で初めてのユニークな試みとなっています。なお、この日、公開選考に先だって、第14回受賞者・三輪眞弘氏の受賞記念サントリー音楽財団委嘱作品「弦楽のための369、B氏へのオマージュ」の初演が行われました。

▽第16回芥川作曲賞

糀場富美子(こうじば・とみこ)

<贈賞理由>

無駄のないオーケストレーションで、確かな自分の音楽世界を明確に表現した点が高く評価された。

<略歴>

1952年7月11日広島市生まれ。東京藝術大学作曲科卒業、同大学院修了。故矢代秋雄、間宮芳生、野田暉行氏に師事。85年、故バーンスタイン氏の推薦で、大植英次指揮により初演された「広島レクイエム」は、小澤征爾指揮、ボストン交響楽団の定期演奏会のプログラムにも取り上げられ、その後世界各

国で演奏されている。また、95年米国サンタフェ室内楽音楽祭に、レジデンス・コンポーザーとして招待され、委嘱作品「The Transmigration of the Soul」が初演される等、国内外で活躍の場を広げている。近作に、「フォオトリエの島」（01年オーケストラ・プロジェクト）、「無宗教レクイエム」、「ぼるとがるぶみ」林望作詞（02-03年）、「この明け方に」（04年 peace あんさんぶるヒロシマ委嘱）、「光る橋」（04年瀬戸フィルハーモニー委嘱）、「パラケルスの部屋」（05年現音）、「Song of Sedona」（05年サンタフェ現代音楽祭）等がある。現在、東京音楽大学教授、東京藝術大学非常勤講師。現音、作曲家協議会、21世紀音楽の会会員。

### 第16回芥川作曲賞 選考経過

1. 2006年4月14日（金）午後1時より東京都港区、東京全日空ホテルにおいて第1次選考会を開催。2005年1月1日より2005年12月31日の間に国内外で初演された日本人作曲家の管弦楽作品を対象に選考し、芥川作曲賞にふさわしい清新にして豊かな将来性を秘めた以下3作品を「第16回芥川作曲賞」の候補に選定した。選考委員は江村哲二、細川俊夫、湯浅譲二の3氏。（50音順）

◆河村真衣 作曲 <闇に沈んだ海>

初演：2005年6月10日東京文化会館

第29回現代日本のオーケストラ音楽

◆糀場富美子 作曲 <未風化の七つの横顔～ピアノとオーケストラのために>

初演：2005年10月13日東京芸術劇場

オーケストラ・プロジェクト2005

◆藤倉大 作曲 <ストリーム・ステート～オーケストラのための>

初演：2005年9月9日ルツェルン・コンサートホール

ルツェルン音楽祭

（50音順）

2. 2006年8月27日（日）、午後3時よりサントリーホールにおいて上記3曲を公開演奏（指揮＝小松一彦、ピアノ＝長尾洋史、管弦楽＝新日本フィルハーモニー交響楽団）。

演奏終了後、ステージにおいて3選考委員による公開討議（司会＝佐野光司氏）を行った結果、「第16回芥川作曲賞」受賞曲に糀場富美子氏の作曲による「未風化の七つの横顔～ピアノとオーケストラのために」が選定された。

3. 公開選考終了後、直ちに同ステージにおいて贈賞式が行われ、芥川作曲賞運営委員長岩井宏之氏により賞状、賞金（50万円）が授与された。  
なお、梶場富美子氏にはサントリー音楽財団より交響管弦楽曲の新作が委嘱され、完成後に同財団主催のコンサートで初演される。（委嘱料100万円）

以 上